

がん相談支援センターを活用してください

がん相談支援センターでは、がんの病気や治療、療養生活についての情報探しのお手伝いや相談にお応えしています。

また、心のケアや生活に役立つ制度の紹介、家族への支援も行っています。

がん相談支援センターや、外来に同席している看護師、薬剤師なども上手に活用して正しい情報を得てください。

相談支援センターの相談例

制度について

- ・ 支援制度や
介護・福祉サービスについて

気持ちのこと

- ・ 落ち込んでつらい



療養生活の過ごし方

- ・ 治療の副作用と
上手に付き合いたい

医療者との関わり

- ・ 医療者に自分の気持ちを
うまく伝えられない



がん専門相談員から ワンポイントアドバイス

病気になると、

健康保険で自己負担が軽減される「直接治療にかかるお金」
健康保険の対象にならない「その他にかかるお金」
両方の費用負担が生じます。ただし「その他にかかるお金」
を軽減できないと諦めないでください。

本人または家族が1年間に10万円を超える医療費を支払った場合に、確定申告をすれば、税金が戻る制度(医療費控除)があります。まずは治療に関連して負担した諸経費について、領収書を保管しておくこと、領収書が発行されないものは療養日記などに記録しておくことをおすすめします。

直接治療にかかるお金



血液検査・レントゲン
エコーなどの検査や生検



手術費用



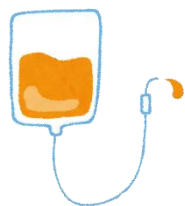
診察費用



くすり代



入院費用



抗がん剤治療
などの点滴

その他にかかるお金



通院のための
交通費や
ガソリン代



入院時の
日用品や寝衣代



診断書や
生命保険会社への
証明書の作成料



入院時の個室代
(差額ベッド代)
食事代



がん専門相談員から ワンポイントアドバイス

“診察室で質問をするときに、ひと工夫”

定期受診の際に、主治医に確認したいことがある場合は、その要点を箇条書きしたものを、診察室前に外来受付経由でお渡しするのも一つの方法です。主治医も、患者さんを診察にお呼びする前に、その日の患者さんがお聞きになりたいことがわかると、時間的・内容的に、心づもりをして診察をすることができます。

スムーズなコミュニケーションには、主治医と患者さん双方からの協力が大切です。

診察時に主治医に確認すべきポイント

手術の場合	
	何日ぐらい休みが必要でしょうか
	手術の前後にどの程度通院が必要ですか
	手術を受けることで、できなくなること、難しくなることはありますか
	手術の後に、追加の治療が必要ですか
	手術にかかる費用はどのくらいですか
放射線治療の場合	
	治療は何回受けることになりますか
	1回の治療にかかる時間はどのくらいですか
	治療を受ける時間について相談できますか (仕事との兼ね合いなどで)
	どのような副作用がありますか
	抗がん剤と並行して受けることはありますか
	治療にかかる費用はどのくらいですか

薬物療法の場合	
	入院・外来通院どちらで受ける治療ですか
	通院や入院の頻度はどのくらいですか
	1回の治療にかかる時間はどのくらいですか
	どのような副作用がどのくらいありますか
	よく起きる副作用で気をつけた方がよいことはありますか (車の運転や通院手段など)
	治療の前後に出勤できますか
	治療にかかる費用はどのくらいですか
会社に確認すべきポイント	
	有給休暇、休職中の給与の条件など
	時短制度、フレックス勤務の有無
	辞めると失ってしまう権利がないか (会社に所属していることで、加入の保険組合独自の高額療養制度や傷病手当金の付加給付金制度が設けられている場合があります)
	相談可能な産業保健スタッフの有無



がん専門相談員から ワンポイントアドバイス

“周囲の理解者・協力者にも正しい情報を”

インターネットで“〇〇がん”と検索すると、ありとあらゆる情報が出現し、何が正しい情報かわからない・・・という経験をしたことはないでしょうか。

適切に情報の更新が行われていて推奨されている治療の安全性など、内容の質も担保されているものとして、がん対策情報センターが運営する「がん情報サービス」があります。

このサイトでは、がん種ごとの解説や副作用対策など、療養生活に役立つ情報が網羅されています。また、正しい情報にアクセスできずお困りなのは、あなたの支援者(ご家族や会社の方)も同じかもしれません。

支援者の皆さんに、病気のことを伝える際には、がん情報サービスの情報や冊子を1冊添えるのも一つの方法です。

当院でも、1F受付前にがん情報サービスの冊子をはじめがん関連の情報を揃えておりますのでご利用下さい

